富士山に一番近い鉄道 富士急こども新聞

涙の最終回 特別記念号

テーマ「これからの富士急行線」

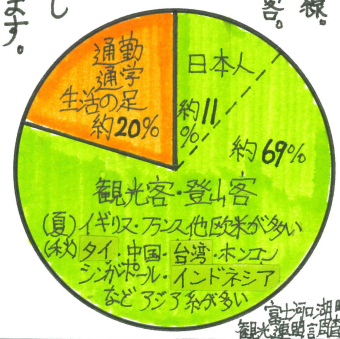
2015年9月10日発行
発行責任者 森 ひびき

富士急行のいろいろな役割

電車に乗ること自体を楽しめるのが理想

富士山の周辺を走る富士急行線。利用者の約8割は観光客や登山客。残り約2割が通勤・通学。そして地域の人。観光電車・登山電車として、富士急ハイランド導入電車の様なお楽しみ電車「トーマスランド号」や通勤・通学電車として、いろいろな役割を果たしています。

富士急行の山中志帆さんは、「移動手段だけでなく、電車に乗ること自体が観光と思って、道中を楽しんでもらえたら良いですね。」と話していました。



富士河口湖町観光運輸調査データ

見て・聞いて・乗って・体感!

❶ 特急や快速に乗っている時、窓の外を見ていよう! 駅のホームから駅員さんが手を振ってくれているよ。

❷ 車内で耳を澄ましていよう! 撮影スポットや良い景色を放送で教えてくれるよ。

❸ 三つ峠駅 寿駅では、車内を歩いてみよう! 自分の足で山を登っている様な急こう配を感じるよ。

❹ 通勤電車6000系に乗ってみよう! 木の床や吊り輪5柄のシートが忙しい毎日をいやしてくれるよ。

富士山へ夢のルート!

夏休みにスイス旅行をして、ぼくの1番の楽しみだったユングフラウ登山鉄道に乗って来ました。ユングフラウ鉄道グループは、インターラーケンオスト(567m)～グリンデルワルド～クライネシャイデック、ヨーロッパ最高地点の鉄道駅ユングフラウ(3454m)までを7年中、登ります。

にエレベーターで117m。研究観測用のドームと観光用展望台があり、誰もが山頂からのすごい景色を楽しめる。グリンデルワルトは景観条例で、家の建て方を合わせたり、窓枠の色を4色に制限。看板や電柱が無い、車窓からの景色はとてもきれいだった。鉄道と住民が協力し合って、世界的観光地を守っている。

運転手さんは高山病を防ぐため、1日3往復運転。観光客を1日に5千人運べる。(同時に登山者数も調整可能)更

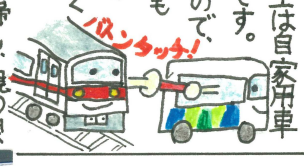
今から25年前、スイスMGB鉄道と姉妹提携した富士急行。目指すもの・環境が同じなので、お互いの鉄道を良くしようと親善交流をしているそうだ。友好の印に、MGB鉄道の車両デザインを模し、赤と白を基調とした車両が走っている。富士山周辺地域の「富士山の環境と観光のあり方検討委員会」では今年5月、「登山鉄道を富士山5合目まで走らせようと提案することを決定。けれどこれは、長期間の大規模工事になるため資金面、山小屋や土産物屋・地元の収入・観光客にも影響が予想され、計画反対の声が大きい。

スイスのように、富士登山電車で富士登山出来たら良いな。お年寄りも富士山からの眺めを楽しめる。毎年問題になっているマイカー規制、登山中のゴミ問題も改善されると思う。

更に利用しやすい富士急行線へ

色々な人達に取材をしていて気付いたこと。

❶ 富士急行線は運賃が高いので、地元の高校生は自家用車での送迎が多いです。雪が多い地方なので、冬の送迎はとても大変です。学校の最寄駅からうまく連携するバスがあったら、朝の渋滞も、親の負担も減り、もっと学生の電車利用が増えると思います。



❷ 観光客・登山客でとてもにぎわう河口湖駅。雨の日に観光客に聞きました。改札口から駅ホームまで線路を渡るので、すべって転びそうな人も見かけました。改札口から駅前ロータリーのバス停までも、屋根が欲しい。

編集後記

最終号として、「今、そしてこれからの富士急行線の果たせる役割」をテーマに取材し、完成しました。名峰富士山に一番近い鉄道として、世界中の観光客が利用する鉄道として、もっと多くの人達に利用して欲しい。地域に暮らす住民にとっても、更に利用しやすい生活の足であって欲しいと思います。

僕は来年中学生。今回が最後の新聞で寂しいですが、きっと大人になったら電車に関わる仕事をしていたいと思います。